

科目	言語文化	担当	加藤 知子	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

言語とは何か、言語学とはどのような学問なのか、言語学は周辺諸領域とどのような関わりをもっているのかについての理解と洞察を深めることができる。普段何気なく用いている言語を哲学することを通じて、大学での学ぶ姿勢を身に付けることができる。言語学研究成果を実際の語学学習の場にどのように活かせばよいのかを考えることができる。言語を通して異文化を理解し、視野を広めることができる。

【履修注意】

出席の際は公共善に鑑み良い学習環境づくりに協力してほしい。授業で用いるパワーポイントスライド「ノート箇所(e-text)」を必ず読むこと。全てテキストが記されている。なお本講座は、言語学を教養として学びたい学生諸君を対象としたものであることに留意されたい。毎回筆記具を持参すること。第15回目の講義は英語で行う。

【評価方法】

出席点15点+試験の成績85点=60点未満:D、60点以上70点未満:C、70点以上80点未満:B、80点以上90点未満:A、90点以上:S

【試験について】

筆記試験を実施する。コンピュータ・携帯電話・スマートフォンを除いて、持込可とする。

再試験対象者の条件:【評価方法】の計算式による、総合点40点に満たない者は、再試験を受けられない。

【予習・復習】

e-textを熟読し講義内容を理解すること。WBTよりダウンロードした教材には参考資料の所在(URL)が記してあるので、発展学習に努めること。内容理解不十分の場合はオフィスアワー等を利用し教員に相談すること。

【教科書】

なし。スライドの「ノート欄(e-text)」記述をテキスト代わりに読むこと。

【参考書】

書籍名:『日本人はなぜ英語ができないか』著者:鈴木孝夫 出版社:岩波新書

【その他の注意事項】

なし。

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	言語文化と教養	「言語文化」の説明、受講心構え、半年間の計画。
2	言語を学問する1	語彙研究、言語を学問する、大学での学び。
3	言語を学問する2	語彙研究、研究成果の応用、大学での学び。
4	言語を学問する3	言語学周辺諸領域、学問の全体像、教養と専門科目。
5	音	発音記号、英語と日本語の発音の違い。
6	言語記号	ソシユール、言語記号、言語から見た異文化。
7	文1	英語の文の仕組みの基本、日本語、フランス語。
8	文2	英語の文の仕組みの詳細、日本語、フランス語。
9	アジアと言語文化	日本・韓国・中国・ベトナム・モンゴルにおける言語事情。
10	言語の広がり	言語圏、社会的要因による言語圏の形成。
11	日本語の中に入ってきた外国語	外来語、日本語と他言語との関わり、言語と社会的要因。
12	日本の言語教育	日本、英語教育、発信型英語。
13	言語は文化である	言語内容の誤解から読み解く異文化理解の困難さ。
14	平和裏に反論する	言語を用いて効果的に反論するためのヒント。
15	“Language and Culture in English”	Major topics of “Language and Culture” will be covered in English.
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ